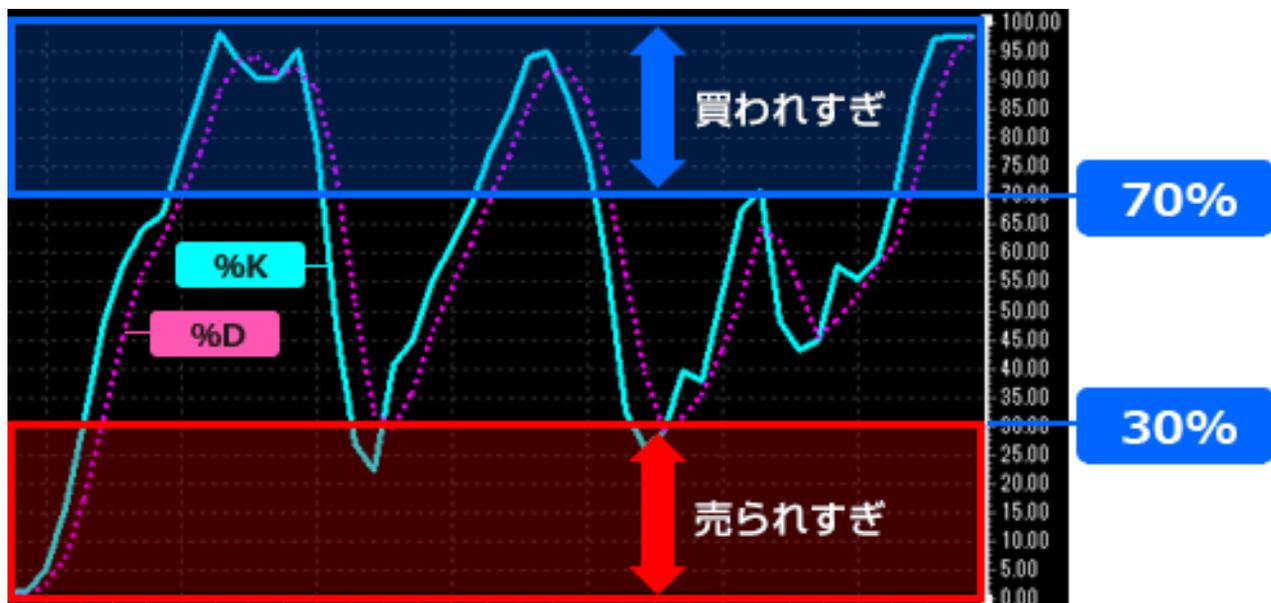


過去の高値、安値を利用して現在の価格の割高（買われすぎ）、割安（売られすぎ）を判断する指標です。

ストキャスティクスとは

ストキャスティクスは、過去の高値、安値を利用して現在の価格の割高（買われすぎ）、割安（売られすぎ）を判断する指標です。RSIと違い、ストキャスティクスは2本の線を用いて売買のポイントを表します。ストキャスティクスで使う2本のラインは%Kラインと%Dラインと呼ばれています。また、相場の動きに素早く反応する%Kよりも反応を少し落としたSlow%Dラインと%Dラインを利用したスローストキャスティクスという指標もあります。ストキャスティクスとスローストキャスティクスのどちらも0%~100%で表され、価格が上昇すると数値が高くなり、価格が下がると数値は低くなります。

基本的に、70%以上になると「買われすぎ」とされ、30%以下になると「売られすぎ」と判断されます。買われすぎ、売られすぎと判断する基準は、任意の基準に設定していただけます。



利用方法

- ◎ 30%以下で%Kが%Dを下から上に抜けたら売られ過ぎ → 買い
- ◎ 70%以上で%Kが%Dを上から下に抜けたら買われすぎ → 売り

 スローストキャスティクスは、%KがSlow%Dに変わるだけで、見方は同じになります。



RSIと同様に、ストキャスティクスは強いトレンドが出ているような相場に弱いといった特徴があります。以下のように、ストキャスティクスが70%を超えても、価格が上昇を続け、ストキャスティクスは70%以上で推移し、張り付いてしまうことがあります。



算出方法

計算に利用する日数は基本的には5日間や9日間が利用されます。

%Kは直近の終値が過去5日間（または9日間）の価格変動のうちで、相対的にどの水準であるかを%で示します。

$$\text{RSI} = \frac{(\text{①} - \text{②})}{(\text{③} - \text{②})} \times 100$$

①当日の終値

②過去5日間（または9日間）の最安値

③過去5日間（または9日間）の最高値

%Dは%Kの数値を3日間に修正したものです。Kラインより遅行する、滑らかな線になります。

$$\%D = \left[(\text{①} - \text{②}) \text{の3日間の合計} \div (\text{③} - \text{②}) \text{の3日間の合計} \right] \times 100$$